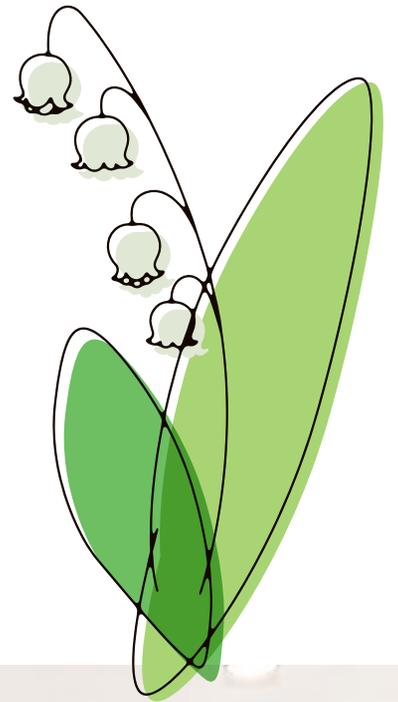




岩手大学女性活躍・
ダイバーシティ推進基金(すずらん基金)ニュースレター



SUZURAN
LETTER
vol. 08

December
2025

すずらん レター

岩手大学 男性職員 育児を語る

—しんどくても楽しそうに、
支え合う環境が未来をつくる—

対談

教育学部 学部運営グループ

三浦勇次郎

法人運営部 総務広報課

中野健二

司会：岩手大学副学長・ダイバーシティ推進室長 海妻 径子

研究・地域連携部 研究支援課

袖林友也

情報基盤センター 情報支援グループ

大内慎也

育児と仕事の両立は、性別に関係なく、子どもがいる働く人にとって重要な課題です。近年では積極的に育児に関わる男性も増え、本学でも育児休暇を取得する男性職員が徐々に増えつつあります。本学では、子育て中の教職員を支援する制度や、学内保育スペース「ばるんひろば」や保育所など環境面の整備もしていますが、その維持は年々厳しさが増しているのが現状です。

本学で働く育児中の男性職員は、育児や育休、働き方、職場からの支援や制度等について、どのように考えているのでしょうか。育児と仕事の両立に向けた工夫や、働きやすい職場環境づくりのヒント、未来の働き方など、現場のリアルな声を通じて、多様な視点から見える課題を考えます。

海妻：岩手大学では、去年より今年の育休取得率が下がってしまいました。今は「育休をちゃんと取らせるように働きかけを下さい」という時代です。上の世代の人には「驚くことに、最近は男性が育休を取る」みたいな発言をする人もいて、皆さんもジェネレーションギャップにぶつかることがあると思います。今回は、本学で働く子育て中の男性職員の皆さんを「見える化したい」ということでお集りいただきました。皆さんは育休をお取りになりましたか？

大内：私は、朝1時間と帰る時間を早める時短勤務でしたので、育休ではないんです。

三浦：うちは、1人目の時は里帰り出産だったので男手があまりい



らなかったのですが、2人目と3人目の時、それぞれ育休を取りました。2人目の時は1ヶ月で「短かったな～」と。で、3人目の時に半年取りました。

袖林：私は2人目の時に、3～4日レベルでしたが、生まれたのが冬だったので、年末に休暇を被せて育休を取って、その年末年始を長くしました。1人目と2人目では「大変さのレベルが違うな～」と感じました。



袖林さん

中野：私も1人目の時は、生まれた直後に1週間ぐらいと、2人目の時は半年くらい育休を取得しました。

完璧じゃなくていい

海妻：育休を取るために仕事を整理して、他の人に引き継ぐために大変だったことはありますか？

中野：私の場合は、2人目のときに育休取得の相談をしていたのですが、5月から育休を取る予定が4月に異動になってしまって、全ての話が全部リセットされて、もう準備も何もできないけど、異動先の上司に背中を押していただいた感じです。

三浦：育休は、上司の配慮や理解と周りの皆さんの協力があって、取らせていただいたなという想が一番大きいですね。感謝してもしきれないところがあります。それと、いい意味で、私がいなくても仕事はちゃんと回るな、と。だから、育休にそこまでハードルを感じなくてもいいかもしれないと気持ちが変わったので、3人目の時は長めに取ろうと思いました。これがプラスの面だと思います。ただ、育休代替の方を手配いただくとか、仕事を引き継ぐための準備が結構必要で、みちみちと仕事をしなければいけなかったの、その時はかなり忙しかったですね。



三浦さん

中野：私も同じですね。「取った方が良いよ」と即答してくれた上司にすごく感謝しています。ただ、その間際はやっぱり忙しかったですし、異動の直後で自分の業務を把握しないまま人に頼まなければいけなかったのは、結構心苦しく感じました。

海妻：仕事に対する姿勢や見え方など、育休を取ったことで変わったことはありますか？

中野：自分がそうしてもらったように育休を取得したい人がいた時には、今度は自分が背中を押せるようにしたいと思います。

袖林：私は2人子供がいるんですが、働きながら3人4人と育てている家庭を本当に尊敬するようになりました。以前の上司がそういう方で、子供の具合が悪くなって迎えに行く時も快く送り出してくれて、すごく感謝しています。

大内：私は、周りに協力してもらって、周りに迷惑がかからないように時短勤務にしたんですが、時間に余裕ができたので、家事を自分から進んでやりました。そこが一番よかったし、一番変わったところですね。

海妻：私の場合、育児で変わったことの一つに、恥をかくことが怖くなくなって、完璧にはできないから、みっともなさも含めて許容できる

ようになりました。

中野：確かにそうかもしれないですね。これでもいいかも？って思うシーンがすごく増えました。子供がそうしたいなら今だけ服を裏返しに着ていてもいいしパジャマのまま外に出たってごねるなら、今日はそれでもいいかと。育児をしてから、詰め切らなくてもいい部分がいっぱいあることに気づきました。全てを「95点の質まで高めなきゃ」なんてやっていたら、とてもとても自分も家庭も回らないので、大切なことに力を注ぐために、「この部分は60点取ればいいのか」というような感覚が出てきたのは良かったと思います。許容できる感覚が広がったのかもしれないですね。そして職場には、他のことを達成するために、ウエイトを落としてもいいような仕事が結構ある気がします。

海妻：私は、非常勤時代に、子供のお迎えや突発的なことがあった時にリモート対応ができるように、Wifiが利用できる街の漫画喫茶の場所を把握するようになりました。岩手大学ではリモートワークを導入していますが、どう思いますか？



中野さん

三浦：子供が体調を崩して急遽休まなければいけないけれど、これだけはこの日にやらなきゃいけないという仕事がある時は、家のパソコンからある程度なんとかできるので、すごくありがたいです。それと、フレックス勤務。まだ私は利用していませんが、あれはすごくいいと思います。子供の習い事は送り迎えの時間が定時よりも早くて、諦めていたんですが、フレックスを活用できれば、早く帰って子供の習い事にも時間が避けるから、よりいい環境になったと感じました。



ぱるんひろば

海妻：岩手大学は優しい職場でしょうか？

三浦：制度がすごく充実していると思います。ぱるんひろば^{*1}も整備されているし、病児保育を利用した時の補助も出るし。そういう取り組みは、他では聞かないし、すごくいいと思います。

中野：私も、岩手大学の取組で助かっています。うちの大学は、リモートワークやフレックスの導入とか、働き方へのアプローチを色々やっているの、進んでいるという印象はあります。

海妻：そこを強調していただきたいです(笑)ありがとうございます。皆さんは、ぱるんひろばや学内保育所は利用していますか？

中野・三浦・大内：使ったことはないです。

袖林：私はどちらも使ったことがあります。ぱるんひろばは、子供が生まれて半年も経たない時に利用しました。妻が育休中、私がぱるんひろばで子供を見ている間に妻が通院するという使い方ができたので、学内にそういう施設があるのはすごくありがたかったですね。

海妻：ぱるんひろばは、安全面で結構お金がかかっているんですよ。本当はキャンパスのあちこちにあった方がいいんですけど、なかなか作れなくて。

自分らしく働ける職場

海妻：教職員アンケートでは「女はお茶くみ、男は力仕事」というのがいまだにあるという回答がありましたが、そういうことを感じたことはないですか？

三浦：私がいる教育学部事務室は、私以外皆さん女性なんです。学部事務は、什器や棚とか、物品の運搬がよくあるんですが、「重たいものはやっぱり男手が必要だね、ちょっと手伝って」というのはありますけど、「あなた男だからやりなさいよ」みたいな感じではないですよ。

袖林：そこはお互い様で、やっていただいている細かいところもあるので、率先してやろうかなと思っています。

海妻：力がない人とか障害がある人とか、色々な人が働けるように、仕事の方を変えていかなきゃいけないのかもしれないですね。皆さんは大学で働いていることを誇りに思いますか？「〇〇ちゃんのパパはお仕事なんなの？」って言われたら、お子さんにはどう答えていますか？

三浦：「学校の事務員さんだよ」と言います。「学校の先生が働けるように、色々準備してるんだよ」と説明しますが、ピンとは来ないと思いますね。

海妻：大学で勤めることに、やりがいは感じますか？

袖林：長く勤めているので愛着はありますし、外に出て恥ずかしくない職員になりたいと思っています。

三浦：正直に言うと、自分の時間をできるだけ確保したい、というのがありきで選んだ仕事で、そういう意味では、育児時間も取れてものすごく精神的には軽やかに仕事をしていると思います。

海妻：自分らしく仕事ができる職場ということですね。



大内さん

大内：私も、大学は民間の会社よりもだいたい時間がとれるから、その辺が一番よかったな、来てよかったな、と思っています。私も愛着がありますね。

中野：私の地元には大きい国立大学がないので、地域に大学があるのはありがたいことだと思います。盛岡では、学生や元気ある人達と一緒に暮らして生きていくことができますし、学生やこれから地域に出ていく人たちのサポートができるのは、やりがいがあることだと思います。

海妻：女性の場合、女性の上司が少ないのでロールモデルがあまりいないんですが、岩手大学には、皆さんが「この人になりたい」と思うようなロールモデルはいますか？

袖林：いましたね。私が20代のころの上司の方で、インパクトは大きかったです。考え方も大きく影響を受けたと今でも思います。

海妻：岩手大学もいい形で再生産できていますね。



海妻 副学長

中野：私は、あまりロールモデルに縛られない方がいいかなと思います。ロールモデルって、「これがいいよ」って下に押し付けるようにも思うので。育児に関する制度や、家族・社会の形も変化しているので、今の育児を次の世代に見せた



とて、あまり役に立たないんじゃないかと。ロールモデルには縛られすぎず、若い世代から学びながら、今の時代はそうやった方がいいよねって、どんどん変化のサイクルを回していくことの方が大事なんじゃないかと思っています。私も、自分の親から子育ての話を知ると「今そんなことやってるヤツいないよ」ということばかりです。仕事の仕方も、男性の生き方も、女性の生き方も、形に固執せず、変化し続けられたらいいなと思います。

海妻：皆さんは、5年後10年後に、どんな大学あるいは大学職員になっていたいですか？

三浦：短期的には、後輩たちが、育児や何かの事情があった時には、積極的に協力して、仕事やケアができるような職員になりたいと思っています。

中野：私は、楽しそうに働いていたいなって思っています。育児とか、介護とか、ライフスタイルの変化を抱えてしんどくても、人から見て楽しそうに見えるようにしたいし、それが活気につながるのかなと思います。積もるものをただこなしていくのではなく、それぞれの長所を活かして仕事ができるような環境にしていきたいですね。

大内：私の職場は(専門性がある職場で)ほぼ人事異動がないので、5年後も同じメンバーと、お互いに気を配りながら、自分の気持ちも伝えながら仲良く仕事できるように頑張ろうと思っています。

袖林：年齢も30代後半になって、職位もちょっと上がって、マネジメントや指導もしていかなきゃいけない立場になってきましたが、若い人にとっては直属の上司からの影響は多分すごく大きいので、自分が仕事をしている姿が他の人からどう見えるか、忙しい時ほど暇そうに見えるように(笑)、というのを意識しています。

海妻：学生のためや、真実の追求のために掛値なしで色々やってきた大学だからこそ、育児や介護を抱えた人も、キャリアが影響を受けずに働けるような、社会や職場を追求することは意義のあることで、大学が自分の時間を大切にできる職場であるということを示すのも、大学の役割だと思います。今日は、本学で働く子育て中の男性職員の皆さんから、誰もが働きやすい職場環境を作るためのヒントを伺うことができました。本日はどうもありがとうございました。

※1 ばるんひろば：学内保育スペース。
すずらんレターvol.6の巻頭記事で対談場所として紹介しています。

※2 株式会社佐藤興産：ダイバーシティ推進協力企業「すずらん企業」

すずらんのエールを胸に — 「鷹觜テル賞」2025年度受賞者決定！

岩手大学優秀女性大学院生学長表彰は、優れた研究活動をしている本学の女性大学院生を表彰し、その研究活動を支援する目的で2012年度に創設されました。2021年度には、岩手大学初の女性助教授となった鷹觜テルの優れた業績を称え、その通称を「鷹觜テル賞」とし、後続の女性研究者・女子学生を励まし続けています。

本年は、9名の応募があり、一次審査を通過した6名について、最終審査会で最優秀賞1名と優秀賞2名の受賞者が決定しました。受賞者には副賞として、国内外の学会旅費および参加費、調査研究費、研究に係る書籍の購入費用を支援します。この副賞は、すずらん基金へのご寄附を財源にしています。

10月10日(金)には表彰式を開催し、受賞者による研究概要の紹介、審査委員長の小川智学長による審査講評のほか、すずらん企業の(株)NTT東日本-南関東 監査役(元NTT東日本(株)岩手支店長)片岡 千夏様と、岩館電気株式会社 代表取締役社長 平野 喜英様をゲストにお招きしスピーチをいただきました。スピーチで片岡様は、横のつながりが成長や活躍の糧になることやライフイベントが多い女性にとって健康を大切にすることの重要性を語りました。また平野様は、小学校入学時の校長先生が鷹觜テル先生だったことに触れ、さらに、様々な人種や性別の人と働いてきた経験から、性別にとらわれず自分らしく活躍してほしいと呼びかけました。ゲストのお二人は、ご自身の豊かな経験と歩みをもとに、未来を担う受賞者たちへ情熱あふれるエールを送りました。



2025年度「鷹觜テル賞」受賞者コメント



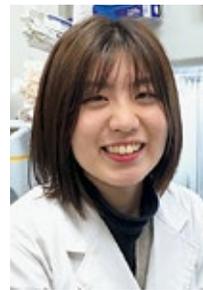
最優秀賞

「エクソソームマーカーCD63の輸送に関するADAP1、ARAP1の機能解析」

鈴木 花純

理工学研究科 自然・応用科学専攻

この度は、鷹觜テル賞最優秀賞という大変名誉ある賞を頂くことができ、誠に光栄に存じます。本研究で得られた発見がこのように評価されたことは、今後研究活動を続けていくうえで大きな励みとなりました。今回の受賞は、日頃よりご指導くださる芝陽子先生をはじめ、研究室の皆さまの支え、そしてすずらん基金による皆さまからの温かいご支援があってこそ成し得たものです。この場をお借りして心より感謝申し上げます。この成果を力に、細胞生物学分野の発展に貢献できる研究者を目指し、これからも研鑽を積んでまいります。



優秀賞

「次世代シーケンスを用いた男性ホルモンシグナル遺伝子ネットワークの解明」

松坂 ひまり

理工学研究科 自然・応用科学専攻

この度は優秀賞を賜り、誠に光栄に存じます。本研究では、男性ホルモン受容体を持つ細胞の遺伝子発現変動を解析し、シグナル下流の遺伝子群を高精度に特定しました。福田先生をはじめ、ご指導くださった先生方、研究室の皆様、心より感謝申し上げます。ご支援いただいた関係各位・運営スタッフの皆様、すずらん基金へご寄付くださった皆様に深く御礼申し上げます。副賞は学会参加費として大切に使用いたします。今回の受賞を励みに、初心を忘れず今後も研究に精進して参ります。引き続きご指導・ご支援のほどよろしくお願いいたします。



優秀賞

「Studies on Rice and Weeds Competition in Organic Rice Farming in Northeastern Japan as Influenced by Weeding Methods Development」

Margi Asih Maimunah (マルギ・アシ・マイナム)

連合農学研究科 生物生産科学専攻(山形大学配属)

Receiving the Teru Takahashi Award has been a highlight of my PhD journey. I'm so inspired by how Iwate University and the Suzuran Fund keep Teru Takahashi's legacy alive. I'm deeply grateful to the Office of Equality and Diversity for this opportunity. This award has truly motivated me to continue my work and actively contribute to soil and agricultural science. My sincere thanks also go to Prof. Weiguo Cheng for his mentorship and to my lab colleagues for their unwavering support. I am profoundly grateful. My hope is that more women will feel empowered to pursue research and help solve the world's problems. A warm greet to everyone at Iwate University from Universitas Gadjah Mada, Yogyakarta, Indonesia.

歴史に光を！ 鷹觜テル賞記念展示に幅広い関心

10月10日(金)から11月2日(日)まで、「鷹觜テル賞」第5回記念展示「鷹觜テルと男性協力者たち～先駆的女性研究者誕生をもたらしたもの～」を開催しました。本学最初的女性助教授となった鷹觜テルが岩手の女性研究者のパイオニアとなる礎を築いた歩みと、その背後にあった男性協力者の存在に光を当てた展示は、学生から一般の方まで、約80名の幅広い層の関心を呼びました。女性研究者の挑戦と男性協力者の支援の歴史を鮮やかに紹介し、多様性推進の重要性を来場者に強く印象づけた展示は、盛況のうちに終了しました。



すずらんの日2025 (岩手大学女性活躍・ダイバーシティ推進イベント) 安田菜津紀さんトークショー 次世代が活躍できるいわてへ ～多様性の尊重を実現するために、わたしたちは何ができるか～開催

11月24日(月・振)、認定NPO法人Dialogue for People副代表／フォトジャーナリストの安田菜津紀さんをゲストにお招きし、トークショーを開催しました。このイベントは、すずらん基金をPRするため、2023年度から年に1回、行っています。会場のキオクシア アイーナには、本学教職員のほか、企業にお勤めの方、学生など、幅広い属性の方が集まり、熱心に耳を傾けていました。トークショーの聞き手は、岩手大学の海妻径子副学長。「同化(少数派が多数派の行動様式に合わせる)とインクルーシブ(多様性を排除せず、すべての人の個性、能力を活かすこと)の違い」や、「民族多様性」、「行動する次世代をどうつくるか」等について、安田さんにお話をいただきました。

参加者からは、「考えていたもやもやが少し晴れたような気がする。自分も自信をもって行動したい」「構造を変えていくために必要なことを丁寧に説いていただいた」「目指したい姿と現実を繋げて考える良き機会になった」等、多くの感想が寄せられました。会場では、すずらん企業のダイバーシティ推進等に関する取組や、岩手大学ダイバーシティ推進室の取組を紹介するパネル展示も行い、すずらん基金についてより多くの方に知っていただく機会になりました。



安田菜津紀さん



トークショー



パネル展示

すずらん基金 感謝のつどい

すずらん基金へ個人40口以上(20万円以上)、法人10口以上(50万円)寄附をいただいた方々を招待する「すずらん基金 感謝のつどい」は、今回で4回目となります。今年度はすずらん企業として川嶋印刷株式会社から総務部長 小野寺 静雄 様にお越しいただきました。本学からは、小川学長、喜多理事、山本理事、水野理事、海妻副学長・ダイバーシティ推進室長が出席し、女性活躍推進に関する意見交換や、本学に期待すること等について懇談しました。



岩手大学本部棟にて

すずらん基金 年度収支報告

(2024年10月1日～2025年9月30日)

年度の寄附状況をご報告します。今年度も、皆様から多くのご寄附をいただきました。心から感謝申し上げます。

年度寄附総額 **1,466,500円**
(第1期からの累計寄附額 11,132,600円)

年度支出計 **1,604,396円**

- | 用途 | 金額 |
|---------------------|---------------------------------|
| ①すずらん基金 感謝のつどいに係る費用 | 16,746円 |
| ②女性教員定着支援費 | 1,200,000円(新任女性教員12人×10万円) |
| ③鷹嘴テル賞副賞 | 250,000円(最優秀賞15万円×1人、優秀賞5万円×2人) |
| ④イーハートブ基金繰入金 | 137,650円 |



岩手大学ダイバーシティ推進室の取組紹介

「岩手大学女性のキャリア形成支援リカレントプログラム2025」終了

「岩手大学女性のキャリア形成支援リカレントプログラム」は、地域で働く女性向けのリーダー育成プログラムです。今年度は、5～9月にベーシックコース、10～11月にアドバンスセミナーを開催しました。

ベーシックコースは、カリキュラムI～IVの全11.5時間の連続講座です。講義、ロールモデル紹介、実践的スキルアップセミナー、参加者間の交流(ネットワークカフェ)など、多様なメニューで構成され、地域のロールモデル紹介の回は、盛岡会場の他、北上市、大船渡市でも開催しました。今年も県内各地、様々な業種の事業所から参加があり、9月12日(金)に行われた閉講式では、すべてのカリキュラムを修了した15名の受講生が、今後の自身のキャリア目標を緊張しながらもしっかりと発表し、学長から修了証を受け取りました。オンラインで参列の上司達からも賞賛を受けました。

上級編となるアドバンスセミナーは全3回開催し、のべ26名が参加しました。今年度は、デジタル人材育成・DX推進をテーマとした講義(第1回)、本学教員による東欧の歴史認識をテーマとした講義(第2回)、課題解決力を高めるワークショップ(第3回)を実施しました。各回とも後半のネットワークカフェでは、リーダーのあるべき姿をグループで語り合い、過年度のプログラム修了生をゲストに招いた交流の機会もあり、毎回業種・職種を越えた交流が盛り上がっていました。全体を通して、すべてのセミナーにおける満足度は90%以上であり、今年度も、受講者および事業所から高い満足度を得ることができました。本学で学んだ方々が地域の女性活躍推進を担ってくれることが大いに期待されます。



カリキュラムⅢの様子



2025年度 ベーシックコース閉講式

未来を描くヒントがここに！ オープンキャンパスで『女性研究者』というシゴトを紹介

8月5日(火)、本学オープンキャンパスで『女性研究者』というシゴトをテーマにしたパネル展示を開催しました。展示では、本学の女性研究者がどんな研究をしているのか、研究者を目指したきっかけ、子どもの頃の夢など、リアルなエピソードを紹介。高校生が進路を考える際に、研究者というキャリアを身近に感じてもらうことを目指しました。

午前・午後合わせて約90名の高校生と保護者が来場し、パネルをじっくり読む姿や、親子で意見を交わす様子が印象的でした。仲間と感想を話し合う学生も多く、QRコード付きの研究紹介パネルをスマホで撮影する姿も見られました。研究者というシゴトに触れることで、「こんな道もあるんだ」と未来の選択肢を広げる一助となったことを期待しています。



パネル展示の様子

小学生向け！サイエンス教室by工学GIRLS(夏のリコチャレ2025)

8月2日(土)、岩手大学で理工系分野を専攻する女子学生の団体「工学GIRLS」との共催で、小学生を対象に、理科実験教室を開きました。このイベントは、内閣府男女共同参画室による「理工チャレンジ(通称リコチャレ。女性たちが理工系分野に進むことを応援する取組)」の一環として行っています。開催は今年で5回目。午前の部と午後の部を開催し、それぞれ30名前後の小学生の参加がありました。実験内容は、液体窒素で花を凍らせる実験や、電球の種類による明るさの比較、レジンとUVライトを使ったキーホルダー作成、毎年恒例で大人気の空気砲など。参加者は理科のしゅくみを楽しみながら知ることができたようで、「また参加したい」との声が多く集まりました。



空気砲



レジンを使ったキーホルダー作成

工学GIRLSは他にも小学生向けの実験教室を開催しています！詳しくは工学GIRLSのホームページをチェック！



北東北女性研究者 研究・交流フェア2025

9月26日(金)、北東北地域の女性研究者の研究活動の活性化、女性研究者間および企業等との相互交流、ネットワーク形成を目的とし、北東北女性研究者 研究・交流フェア2025を開催しました。

第1部は、「産学官トップでいま改めて考える女性リーダー増加の加速」と題し、基調講演とパネルディスカッションを行いました。基調講演師には、三井住友海上火災保険株式会社 常任顧問、一般社団法人日本経済団体連合会 経済財政委員長(前ダイバーシティ推進委員長)の 柄澤 康喜氏を迎え、「ダイバーシティはなぜ必要か、どのように推進するのか」について、お話をいただきました。その後のパネルディスカッションでは、柄澤氏のほか、東北経済産業局地域経済部地域経済課長 伊藤 ひろみ 氏、岩手大学学長 小川 智 が登壇し、産官学における女性リーダー増加の課題とその克服について、それぞれの考えをお話いただきました。対面とオンライン配信で開催し、参加者は約100名。参加者からは、「我々を取り巻く環境の変化、先進的な企業の取組の紹介等を通じ、改めて多様性の必要性や推進方策を考える良い機会となった」など、大変参考になったとの声が集まりました。

第2部ポスターセッションには、北東北の研究機関に所属する女性研究者 約20名が参加。各々が研究概要を1分でプレゼンテーションしたあと、研究内容に関する意見交換などを行いながら、交流を行いました。ポスターセッション前のランチタイム交流会も含め、文理問わず様々な分野の研究者が交流を行うことで、視野が広がったり、この機会だからこその出会いがあったりと、充実した時間になったと思われまます。



第1部 基調講演 柄澤 康喜氏



第1部 パネルディスカッション



第2部 ポスターセッション(1分プレゼン)



第2部 ポスターセッション(交流の様子)



第2部 ランチタイム交流会

地域とともに未来を描く 北東北国立3大学連携男女共同参画シンポジウム開催

10月17日(金)、「地方大学における女性リーダー育成環境の課題」をテーマに、北東北国立3大学連携男女共同参画シンポジウムを開催しました。

このシンポジウムは、秋田大学・弘前大学・岩手大学が2010年度から続ける持ち回り企画で、今年度は岩手大学が主催校として開催しました。本学が実施した「女性リーダー育成環境整備にかかる教職員アンケート」の報告を中心に、地域に根ざした大学の魅力づくりや大学経営におけるダイバーシティ推進の意義を考える場とし、当日は3大学から、会場とオンラインで40名以上が参加しました。

基調講演では、経済産業省経済産業政策局 経済社会政策室長の高木悠一氏が、大学経営におけるダイバーシティ推進の重要性を語り、制度整備だけでなく意識改革の必要性を強調しました。続くアンケート結果報告では、育児・介護との両立支援やICT活用による業務効率化が課題であることが示され、参加者からは「男性の育休取得促進」「オンライン会議の推進」「誰もが大切にされる職場づくりが大学の魅力につながる」「『人材は宝』に共感」といった声が寄せられました。

3大学の理事からは、女性教員の上位職登用や多様な働き方の実現に向けた連携強化の意志が確認され、地方大学の未来に向けた変革の方向性が示されました。岩手大学は今後、ダイバーシティ推進を「経営戦略」として位置づけ、地域とともに歩む大学づくりを加速していきます。



すずらん企業と本学学生が交流しました！ ～(株)吉田測量設計 海外OJT生とグローバル交流～

すずらん企業である(株)吉田測量設計は、2024年から海外の学生に日本企業への関心を高めてもらおうと、海外からのOJTを受け入れています。昨年は、約2カ月の期間中に、インターンシップの学生と本学の学生との交流会を行いました。今年も6月11日(水)に、タイの大学で測量や土木工学を専攻している学生3名が本学理工学部を訪れ、研究室見学や学生生活についての情報交換などを行いました。交流の様子は、複数の地元のTVニュースでも報道されました。本学の学生にとって、研究分野が近い海外の学生との交流は、研究におけるグローバルな視野の拡大、コミュニケーション能力の向上、専門知識の相互補完、キャリア形成への刺激、多様性への適応力の獲得などの様々な効果が考えられます。また、大学として地域企業の積極的な国際的取組を学生に示すことは、地域に根ざしながらグローバルな視野を持つ人材の育成に繋がるものと考えます。当室では、今後も地域との連携を大事にし、地域企業のダイバーシティ推進を応援していきます。



令和7年度 岩手大学公開講座 多様な分野で輝く女性の交流会 ～女子中高生向け 理系の魅力発信イベント～ 理工卒の女性たちはどんな仕事しているの？

岩手大学では、女子中高生が理工系分野に興味を持ち、進路の選択肢とすることを応援しています。2025年7月12日(土)、岩手大学理工学部が主催し、女子中高生に理系の魅力を伝えるイベントを行いました(共催:岩手県商工労働観光部ものづくり自動車産業振興室)。内容は、岩手大学理工学部の女性卒業生によるトークセッションと座談会です。プライベートも楽しみながら、それぞれの職場で専門知識や技術を生かし活躍している彼女たちの姿は、参加者の中高生の良いロールモデルになったと思われます。同会場では、建設、半導体関連、精密機械、情報通信といった理系の仕事を紹介するブースも出展しました。

※岩手大学では、山田進太郎D&I財団によるGirls Meet STEM(GMS)に参画しています。本イベントはGMSにも位置付けています。



トークセッション



ブース出展

クラウドファンディングで目標達成！ 「生理用ナプキンを無料で必要な学生に届けたい！2025」プロジェクト

岩手大学では、「生理用ナプキンを無料で必要な学生に届けたい！2025」というクラウドファンディングを、日本初・国内最大級のクラウドファンディングサービスREADYFORで実施しました。11月20日～12月21日の募集期間に、目標28万円に対し、39万8千円のご支援をいただきました。ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

この取組は、コロナ禍で「生理の貧困」問題が顕在化したことをきっかけに開始し、今回は2回目の挑戦です。必要とする学生に生理用ナプキンを継続的かつ安定的に届けることで、生理に起因する不安や負担を軽減し、安心して学生生活を送れる環境づくりを目指しています。こうした環境整備は、女子高校生が本学、とりわけ理工学部への進学を前向きに検討するきっかけになると考えています。

本学は、今後も地域に開かれた大学として、女性活躍・ダイバーシティ推進「すずらん基金」やクラウドファンディングなど、様々な形でご支援をお願いしてまいります。



副学長(ダイバーシティ・環境マネジメント担当) / ダイバーシティ推進室長

海妻 径子

「今号編集を終えて」

今回の座談会会場は、すずらん企業の(株)佐藤興産様のシェアオフィス。今後も、岩手大学構内を会場とするだけでなく、すずらん企業様ゆかりの場所にも、お邪魔していきたいと考えています。本学の様子を紹介するだけでなく、すずらん企業様と地域とのつながりを広報させていただくのも、本レターの役割。女性活躍・ダイバーシティに関心の高い、企業様や市民の方々がつながり応援し合う。その輪の中心に本学がいることができれば幸いです。



この秋、熊の被害が相次ぎました。野生動物との共生が改めて問われています。翻って、多様な事情や背景や価値観を持つ人が共に暮らす人間社会はどうでしょうか。「みんなちがって、みんないい」という言葉のように、人間社会では互いの違いを尊重しようとする姿勢が共生の鍵ではないかと思う今日この頃です。

【編集・発行】 岩手大学ダイバーシティ推進室

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-8
Tel: 019-621-6998 / 6038 Fax 019-621-6999
E-mail equality@iwate-u.ac.jp
HP: https://diversity.iwate-u.ac.jp



すずらん基金HP



女性活躍・ダイバーシティ推進基金
すずらん基金



岩手大学
IWATE UNIVERSITY